キャリアセンターでは、企業と卒業3年目（2022年3月大学、短期大学部卒業）の卒業生を対象にキャリアに関するアンケートを実施した。企業には、関西外国語大学に求めるものや、イメージを聞いた。卒業生に対しては、今の仕事の満足度、学生生活での出来事が卒業後にどのような影響を与えているか、について質問した。

企業アンケート（大学）の回答結果

<アンケート実施概要>

調査対象：関西外国語大学学生の採用に関心を持つ企業や採用実績のある企業計46社
調査期間：2024年9月
調査方法：WEB

1. 入社した本学卒業生全般に当てはまると思われるもの（複数回答、上位5項目を記載）

コミュニケーション能力がある	89%
行動力がある	61%
実用的な外国語運用能力がある	59%
チームで働く力がある	59%
主体性がある	54%

2. 求める人材像（複数回答、上位5項目を記載）

主体性がある	94%
チームで働く力がある	87%
コミュニケーション能力がある	85%
行動力がある	78%
課題解決力がある	63%

3. 社会人になる前に身に付けることが望ましい知識・経験（複数回答、上位5項目を記載）

一般常識、一般教養	83%
アルバイト経験	48%
語学力	39%
PCスキルやITスキル	30%
海外留学などの海外経験	30%

総評

【本学大学卒業生の「コミュニケーション力+仕事に前向きな姿勢」を評価】

企業46社に入社した関西外国語大学卒業生に当てはまるものを聞いたところ、「コミュニケーション能力がある」と答えた企業が89%でトップだった。「行動力がある」(61%)、「実用的な外国語運用能力がある」「チームで働く力がある」(ともに59%)、「主体性がある」(54%)が続き、本学卒業生の仕事に対する前向きな姿勢が評価されている。企業側の求める人材は「主体性がある」(94%)、「チームで働く力がある」(87%)、「コミュニケーション能力がある」(85%)、「行動力がある」(78%)、「課題解決力がある」(63%)が上位を占めている。「課題解決力」を除き、本学卒業生の特徴と概ね一致していた。

【「一般常識、一般教養」を求める企業が8割】

社会人になる前に身に付けることが望ましい知識・経験では、「一般常識、一般教養」をあげた企業は83%と群を抜いていた。「語学力」(39%)、「海外留学など海外経験」(30%)など本学学生の強みを重視する企業も多い。

企業アンケート（短期大学部）の回答結果

<アンケート実施概要>

調査対象：関西外国語大学短期大学部学生の採用に関心を持つ企業や採用実績のある企業計16社

調査期間：2024年9月

調査方法：WEB

1. 入社した本学短期大学部卒業生全般に当てはまると思われるもの（複数回答、上位5項目を記載）

コミュニケーション能力がある	88%
主体性がある	56%
チームで働く力がある	56%
行動力がある	50%
考え抜く力がある	31%
異文化・多文化共生力がある	31%

2. 求める人材像（複数回答、上位5項目を記載）

コミュニケーション能力がある	94%
主体性がある	94%
チームで働く力がある	81%
行動力がある	75%
グローバル人材として期待できる	56%
課題解決力がある	56%
ストレスコントロール力がある	56%

3. 社会人になる前に身に付けることが望ましい知識・経験（複数回答、上位5項目を記載）

一般常識、一般教養	88%
アルバイト経験	69%
語学力	50%
PCスキルやITスキル	44%
海外留学などの海外経験	38%

総評

【本学短期大学部卒業生の「コミュニケーション力+仕事に前向きな姿勢」を評価】

企業16社に入社した関西外国語大学短期大学部卒業生に当てはまるものを聞いたところ、「コミュニケーション能力がある」と答えた企業が88%でトップだった。「主体性がある」「チームで働く力がある」（ともに56%）、「行動力がある」（50%）が続き、本学卒業生の仕事に対する前向きな姿勢が評価されている。企業側の求める人材は「コミュニケーション能力がある」「主体性がある」が94%でトップ。「チームで働く力がある」（81%）、「行動力がある」（75%）、「グローバル人材として期待できる」「課題解決力がある」（56%）となっている。「当てはまるもの」と「求める人材像」の上位4項目は一致しており、企業側のニーズに合った人材を輩出できていることが裏付けられた。

【「一般常識 一般教養」を求める企業が8割】

社会人になる前に身につけていることが望ましい知識・技能、望ましい経験等では、「一般常識、一般教養」をあげた企業は88%とトップ。「語学力」（50%）、「海外留学など海外経験」（38%）など本学学生の強みを重視する企業も多い。

卒業生（大学）アンケートの回答結果

<アンケート実施概要>

調査対象：2022年3月卒業生（卒業後3年目）2593人

調査期間：2024年8月

調査方法：WEB

回答者数：162人（回答率6.2%）うち就業者146人

1. 現在の仕事の満足度（回答者数145人）

満足	29%
やや満足	50%
どちらとも言えない	13%
やや不満	3%
不満	5%

2. 現在、外国語を使った仕事に従事している（回答者数144人）

従事している	47%
従事していない	48%
かつて従事	5%

3. 現在の就業先を選択した際、重視したこと（複数回答、上位5項目を記載）

やりがいがある	54%
成長できる	41%
仕事とプライベートの両立	37%
自分の夢や希望が叶う	36%
高い収入を得られる	21%

4. 転職の理由（回答者数37人）

労働条件に問題があった	54%
満足のいく仕事内容でなかった	43%
就業先の将来に不安を感じた	32%
他によりよい仕事があった	27%
もとより一時的な仕事として就職した	27%

5. 大学生生活を振り返って、学生生活の満足度はどの程度か（回答者数160人）

満足	33%
やや満足	43%
どちらとも言えない	13%
やや不満	10%
不満	1%

6. 学生生活は卒業後の生き方、人生観などに何らかの良い影響をもたらしているか（回答者数161人）

そう思う	42%
ややそう思う	43%
どちらとも言えない	11%
ややそう思わない	2%
そう思わない	1%

7. 在学中に力を注いだこと（複数回答、上位5項目を記載）

正課授業	62%
アルバイト	45%
海外留学・異文化体験	41%
本学学生との交流	31%
資格取得	30%

8. 在学中に力を注いでおけばよかったこと（複数回答、上位5項目を記載）

海外留学・異文化体験	50%
異文化交流	36%
資格取得	33%
インターンシップ・ボランティア	30%
就職・キャリアに関する経験・知識取得	30%

9. 在学中に身に付いたこと（複数回答、上位5項目を記載）

コミュニケーション力	67%
実用的な外国語運用力	44%
行動力	35%
チームで働く力	35%
主体力	34%

10. 在学中に身に付けておけば良かったこと（複数回答、上位5項目を記載）

実用的な外国語運用力	50%
専門的知識・能力	32%
プレゼンテーション力	28%
論理的思考力	27%
ディスカッション力	24%

総評

【約8割が「現在の仕事に満足」、半数が外国語を使う仕事に従事】

回答者の90%が就業中である。また、回答者の79%が現在の仕事に満足（「満足」と「やや満足」の計）している。回答者のほぼ半数（47%）が外国語を使う仕事に従事しており、本学の学びと経験を活かして仕事をしていることが、現在の仕事への高い満足度へと繋がっている。

【「やりがい」を求めて進路変更】

回答者の33%にあたる54人が卒業時とは別の進路に変更している。その内、転職者の転職理由は、「労働条件に問題があった」（54%）、「満足のいく仕事内容ではなかった」（43%）などであった。現在の就職先選びで重視した点は、「やりがいがある」（54%）、「成長できる」（41%）、「仕事とプライベートの両立」（37%）、「自分の夢や希望が叶う」（36%）、「高い収入を得られる」（21%）が上位になっている。やりがいを求めて進路変更した結果が現在の仕事への満足度の上昇に影響している可能性がある。

【大学生生活の満足度低下、新型コロナウイルスの影響が色濃く】

回答者の76%が自身の大学生生活に満足（「満足」および「やや満足」の計）している。しかし、前年度の調査より14.9ポイントも下がっている。在学中に力を注いだことは「正課授業」（62%）と「アルバイト」（45%）が上位で、「海外留学」（41%）は3位。「異文化交流」は26%で7位にとどまっている。力を注げばよかったことは「海外留学」（50%）、「異文化交流」（36%）となっている。在学中、身についたことは「コミュニケーション力」（67%）、「実用的な外国語運用力」（44%）、「行動力」（35%）、「チームで働く力」（35%）が上位を占めた。アンケートの対象となった卒業生は新型コロナウイルスの感染拡大により、オンライン授業や留学に行けないなど、最も影響を受けた学年。海外留学、異文化交流が思ったように出来ず、大学生活への満足度が低下したことがアンケートから裏付けられる。しかしながら、85%は学生生活が卒業後の生き方、人生観に良い影響をもたらしている（「そう思う」と「ややそう思う」の計）と答えていることから、大学生活で培った力は実社会において発揮できていることを卒業生が実感していることがわかる。

卒業生（短期大学部）アンケートの回答結果

<アンケート実施概要>

調査対象：2022年3月卒業生（卒業後3年目）799人
調査期間：2024年8月
調査方法：WEB
回答者数：39人（回答率 4.9%）うち就業者30人

1. 現在の仕事の満足度（回答者数30人）

満足	30%
やや満足	40%
どちらとも言えない	27%
やや不満	3%
不満	0%

2. 現在、外国語を使った仕事に従事している（回答者数30人）

従事している	30%
従事していない	67%
かつて従事していた	3%

3. 現在の就業先を選択した際、重視したこと（複数回答、上位5項目を記載）

やりがいがある	41%
成長できる	34%
仕事とプライベートの両立	31%
自分の夢や希望が叶う	31%
社会や地域への貢献が実感できる	24%

4. 大学生生活を振り返って、学生生活の満足度はどの程度か（回答者数39人）

満足	10%
やや満足	33%
どちらとも言えない	15%
やや不満	23%
不満	18%

5. 学生生活は卒業後の生き方、人生観などに何らかの良い影響をもたらしているか（回答者数39人）

そう思う	10%
ややそう思う	46%
どちらとも言えない	18%
ややそう思わない	21%
そう思わない	5%

6. 在学中に力を注いだこと（複数回答、上位5項目を記載）

正課授業	66%
アルバイト	61%
本学学生との交流	26%
自己の就職・キャリアに関する経験や知識の習得	13%
異文化交流	11%

7. 在学中に力を注いでおけばよかったこと（複数回答、上位5項目を記載）

本学学生との交流	46%
海外留学・異文化体験	41%
異文化交流	39%
クラブ・サークル活動	39%
資格取得	36%

8. 在学中に身に付いたこと（複数回答、上位5項目を記載）

コミュニケーション力	63%
プレゼンテーション力	34%
実用的な外国語運用力	26%
行動力	26%
課題解決力	26%

9. 在学中に身に付けておけば良かったこと（複数回答、上位5項目を記載）

実用的な外国語運用力	54%
コミュニケーション力	32%
プレゼンテーション力	32%
論理的思考力	32%
行動力	24%
課題解決力	24%
ディスカッション力	24%

総評

【現在の仕事に7割が満足】

我が国の短大卒の3年以内の離職率が4割超で推移している中、回答者の内、約8割が就業中。また、回答者の約7割が現在の仕事に満足（「満足」と「やや満足」の計）している。就業先の選択において、「やりがいがある」を重視した卒業生は41%、「成長できる」（35%）、「仕事とプライベートの両立」（31%）、自分の夢や希望が叶う（31%）と続き、将来のことをよく考えて就職先を選択した結果が高い仕事満足度に繋がっている。

【新型コロナウイルスの感染拡大と重なる学生生活 満足度低下】

学生生活の満足度は、「満足」「やや満足」を合わせて44%で、昨年調査より26.6%下がっている。今回調査対象となった卒業生は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生生活2年の内、1年半ほど対面授業がなかったなど人的交流が思うように出来なかったこともあり、学生生活で力を注いでおけばよかったことの上位は、「本学学生との交流」（46%）、「海外留学」（41%）、「クラブ・サークル活動」「異文化交流」（39%）であった。しかし、57%の回答者が「学生生活が卒業後の生き方、人生観などに何らかの良い影響をもたらしている」と回答していることから、卒業後は大学生生活に十分意義を感じているようだ。